

「青の青」 いそべみつ

清冽な水吸う蝶はトウーシューズ
君がため生毛の光る蓬摘む
見開いて椿は月と交信す
水仙の気魄の弛む日和なり
知恵袋あらば膨らめ山笑う
君も君もきっと乗れるよ春の雲
雛飾る一人芝居の幕上がる
十二單一日一夜と薦たける
清明のこの朝粗大ゴミを出す
読みごたえなき本のごと今夏果つ
空切つて飛び込み青き魚となる
活きるため夏うぐいすを浴びに来し
願わくば光源氏の落し文
大山蓮華クレオパトラの香を放つ
バス待ちの人それぞれの遠花火

琴線と茶杓の黴をぬぐわんや
腹切りの櫻見学暑気払い
麗人の繰りごとに似て鉦叩
雑巾の絞られしまま麦の秋
愛と憎十五個重ね月を待つ
大花野背鰭尾鰭となる手足
鮫鱗の形見となれる顎ひとつ
クリスマスケーキ鏡の前で灯す
捨てるという美学を拒み年跨ぐ
神々の口角の泡雪しまく
雪嶺やさくさくと積む母の骨
着膨れて心の細るうとましさ
逝くならばサンタの橇へ乗つて行け
佐助稻荷淑氣は赤と見えたり
ふたつほど鬼門増やして鬼は外